

Combatting Global Infectious Diseases



[日英同時通訳]

グローバル社会における
感染症の克服に向けて

モデレーター

国立感染症研究所感染病理部部長

長谷川 秀樹 氏

講演者

文部科学省研究振興局先端医科学研究企画官

高城 亮 氏

厚生労働省健康局国際感染症対策室長

野田 博之 氏

長崎大学国際連携研究戦略本部教授

長谷部 太 氏

国立感染症研究所感染症疫学センター

山岸 拓也 氏

国立感染症研究所感染病理部

鈴木 忠樹 氏

エーザイ(株)グローバルヘルス研究室室長

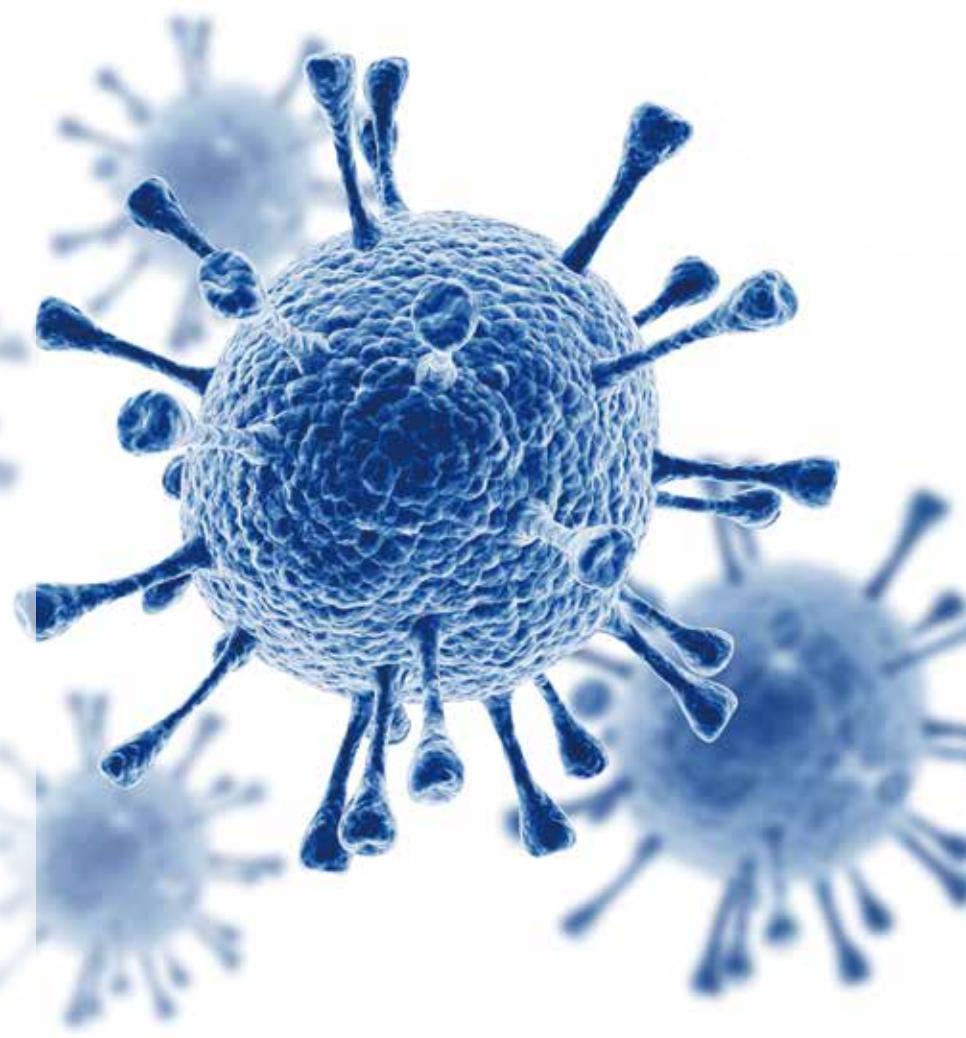
畠 桂 氏

ビル&メリンダ・ゲイツ財団日本代表

柏倉 美保子 氏

国立台湾大学教授

Wang-Huei, SHENG 氏



筑波大学
University of Tsukuba

問い合わせ先

筑波大学 TGSW 推進ユニット

029-853-4207 TGSWsecretariat@un.tsukuba.ac.jp

事前申込

申し込みの際はセッション No.2-12 を選択してください

<https://tgsw.tsukuba.ac.jp>



Combatting Global Infectious Diseases

「グローバル社会における感染症の克服に向けて」について

本セッションは、SDG3として位置付けられている「健康と福祉の推進」に関連して、「Combatting global infectious diseases / グローバル社会における感染症の克服に向けて」という題目のもとに、世界各地で蔓延する感染症対策に最前線で従事する若手研究者等をスピーカーとして、TGSW2018の中のひとつのセッションとして実施する。

近年、新しい病原体による感染症が注目を浴びている。

パンデミックインフルエンザ や 鳥インフルエンザウイルス感染症、中東呼吸器症候群 (MERS)、エボラウイルス感染症、重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)、ジカウイルス感染症 など、新興・再興感染症は人類にとって大きな脅威であり続けている。感染症の中には、国内では発生が稀であっても海外においては多数の症例が見られる疾患も存在する。近年のグローバリゼーションに伴い、海外で感染して国内に輸入される感染症は増加しており、国内においてもいつ発生例が出現するかも予測できない状況に置かれている。よって感染症の克服にはグローバル社会における対応が重要になる。

TGSW2018の本セッションにおかれては基礎研究、疫学、臨床、行政、企業それぞれの立場において第一線でこれら新興再興感染症の克服に向けた活動をされている内外の講演者のかたにその取り組みを講演していただきグローバル社会での対応についてディスカッションする。

2018年9月20日

14:00-17:00 / 入場無料

会場:つくば国際会議場

〒305-0032 茨城県つくば市竹園2-20-3

<https://www.epochal.or.jp>

